

# 子どもたちに 核兵器も基地もない 平和な日本と世界を

憲法・平和・核兵器廃絶  
メールニュース第9号  
2011年7月13日(水)  
全教・国民共同局

## 「原発ゼロめざす7・2緊急集会」に20000人。

7月2日、明治公園で開かれた「原発ゼロ」集会には、原発事故被災地の福島からの代表団をはじめ全国から会場をうめつくす20000人が参加しました。この集会は、安齋育郎氏、市原悦子さん、湯川れい子さん、菊池鉦さんなど署名な10人の方々の呼びかけにこたえて、全労連や市民団体が実行委員会をつくって開催したものです。

## 全教の展示「福島の子どもたちは、いま」

### 「原発はどう教えられてきたか」が話題に！



第一部は、各団体がテントを張って、ブース展示。全教は、2つのテーマで展示しました。一つは、「福島の子どもたちはいま」というテーマで、「サテライト方式」（避難区域の高校は、福島市や郡山市の学校に間借りしている）の写真や福島高教組ニュースを展示しました。食い入るように見ながら、「体育館にはエアコンないんでしょ。熱中症が出るよねえ。」「いつまで、こんな状態が続くんだろう。」と、参加者。

そして、もうひとつは、「原発は、どのように教えられてきたか」というテーマ。文部科学省の副読本「わくわく原子カランド」「チャレンジ原子カワールド」、そしてその知識を定着させる「ワークシート」の記述を一つ一つ読みながら、「安全神話を小学生に教え込んでいくんだねえ。これは、洗脳だね。」と、大きな怒りが広がっていました。また、教科書に対する検定意見や、現行教科書の原発に関する記述も展示しました。検定意見の特徴は、①原発の危険性を強調しない、②原発は低価格でクリーンなエネルギーであることを強調する、③自然エネルギーは不十分



という三点です。真実を隠し、事実を捻じ曲げてきた文部科学省の責任は重大です。さらに、今回の新学習指導要領には、今まで以上に、教科数についても、内容についても踏み込んだ記述がされています。そして、その新指導要領をテコに、原子力学会はさらに圧力を強めているのです。まったくひどい話ですが、このことを多くの市民の皆さんに知っていただく機会となりました。

第二部の集会では、福島県の皆さんや、原発労働者、愛媛県伊方原発停止を求める学生などが次々に発言しました。

第三部のパレードは、長い長いパレードになり、沿道の皆さんに大きくアピールしました。

福島集会6 / 25、佐賀県集会7 / 9、愛媛7 / 11 緊急行動、  
次は、「浜岡原発の永久停止・廃炉を求める  
静岡県大集会7・23ひまわり集会」です。

～～全国に、「原発ゼロ」の声が広がっています。

きれいな里山を返せ、きれいな海を返せ、  
当たり前前の労働を返せ、普通の暮らしを返せ、  
それができないなら十分な賠償を行え。  
今回の事故は国策がもたらしたものです。  
全国各地で草の根の運動に立ち上がろう。

《伊東達也・原発問題住民運動全国センター代表委員の  
7・2集会でのあいさつ》



## 原水爆禁止世界大会まで、あと3週間！

1945年8月、人類がはじめて経験した核攻撃の被害から、今年は66年目の夏を迎えます。そして、1955年、はじめての原水爆禁止世界大会から56年目を迎えます。原水爆禁止運動は、この間、変わることなく、核戦争阻止、核兵器全面禁止・廃絶、被爆者援護・連帯の目標を掲げてきました。目標は変わりませんが、情勢は大きく変わりました。

「核兵器のない世界が地平線の上に見えて」（潘基文国連事務総長）います。昨年5月のNPT再検討会議では、参加国は「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことをNPTの目的とすることに合意しました。私たちの草の根の署名運動が世界を動かしてきたのです。そして、NPT再検討会議の後も着実に、その動きは進んでいます。

今年の世界大会では、新署名を舞台に積み上げ、国連代表に手渡す場面も計画されています。世界大会を多くの参加者で成功させることが、核兵器全面禁止の次のステップへの力となります。

いま、だんだんと、各構成組織から参加確定状況が報告されてきています。どの組織も、青年の参加に力を入れていることが伝わってきます。「つながりたい」「集まりたい」「学びたい」・・・世界大会は青年の要求そのものの取り組みです。そして、私たちが主人公として世界を動かしていることを実感できる集会です。また、被爆者の方々の体験を生で聞くことができる貴重な機会です。

世界大会まで、あと3週間。それぞれの目標を達成して、世界大会を大きく成功させましょう！

### ❖ 教職員平和のつどい in 長崎 ❖

8 / 8 (月) 17:30～19:30 ホテルセントヒル長崎「紫陽花」の間  
世界大会の2日目(分科会)の夕方は、「教職員平和のつどい」に集まりましょう。

- ★「福島からの特別報告」(福島高教組相双支部書記長の松本佳充さん)
- ★平和さるくガイド(長崎高の先生)の報告・・・「さるく」とはブラブラ歩くという長崎の言葉
- ★高校生平和ゼミナール・サポーターの先生の報告
- ★「少し勇気を出してやってみました、平和教育」・・・交流しましょう!!
- ★海外代表へのプレゼント